	WS用　質問　まとめ
質問	・どこまで舞台上で大暴れすると悪影響がでるのか。
返答	基本的には常識の範囲でお願いします。舞台に穴が開く、物が壊れる、などはNGです。

質問	・倒れる演技をした時、席によっては見えにくくなってしまう。工夫など改善策はあるか。
返答	客席が舞台より高い以上、限界はあります。舞台前で倒れるほど見えにくくなるので、なるべく倒れる場所を舞台奥にする。倒れた人だけに目が行くような演出を長くしない。などでしょうか。 断面図を活用してみましょう。観客の目線を設定することで「どこまで見えるか」「見切れるか」が分かります。

質問	製作について ・袖幕を製作したい。安価に制作したいがどのようなお店でどのような物を購入すればいいのか。例えば黒原反にちい紐をつける様な物など。 ・木材が曲がっていてもまっすぐなパネルを作る方法を知りたい。
返答	・黒原反にチチ紐で作れればそれでいいですが、1枚だけだと明かりが透けてしまう場合があります。袖幕を作るのはコストも手間もかかりますし、サイズによっては会場が変わると使えなくなるので、学校内の稽古中に必要ということだけであれば、パネルやパーテーションを使ったり、シュテンダーに幕をかけるなどして代用してもいいかと思います。 ・木材の曲がっている部分はカットして、真っすぐな部分を使うしかありませんので、なるべく真っすぐな材料を選ぶようにしましょう。しかし、パネルであれば上からベニヤをかぶせ、釘やビスで打ち付ければ、曲がっている材料でも使用できます。

質問	舞台上で雰囲気を表現することについて ・時間の経過を表す照明の出し方 ・音で印象を変えたい。役者とのタイミングの合わせ方、音の切替方について大切なこと ・雰囲気を出す上でのやり方はあるか。
返答	音響： 役者に対しての音のタイミングについて一概には言えませんが、芝居の流れに合わせるのが良いかと思います。気持ちが切り替わったと思われるタイミングで出してみてはどうでしょう。他のセクションと連携することでより効果的になります。 曲の切り替えについては、クロスフェード(徐々に音を下げていき、少し下げたところで次の音スタートし徐々に上げていき、元の音はそのまま下げていく）もしくはフェードアウトからカットイン（徐々に音を下げていき半分くらい下げたところで次の音を正規の音量でスタートする）で切り替えるとより自然に、カットチェンジ（次の音がポンと入った瞬間にその前の音を消す）だと逆に意図的に不自然になると思います。カットチェンジで音楽を切り替えたい場合、台詞よりは役者の表情の変化に併せて音楽をカットチェンジすると、役者の演技を助けて有効かと思います。 ただ舞台の場合、マイクを付けないのであれば台詞をきかせるために音楽の音量は小さくせざるを得ないと思いますので、そうした場合音で効果をつけようとすると、それほどの音量で出せない場合も多いので、そのことを念頭に選曲と演出をすることが必要だと思います。
	照明:「時間の経過を表す照明の出し方」 　①「照明効果」だけで時間経過を表現するという事でしょうか？それとも、 　②「演出」として時間経過を表現するという事でしょうか？ ①であれば時間軸を考え、夜明け～朝 / 朝～昼 / 昼～夕方 / 夕方～夜 として、「光の方向(太陽の位置を設定)」や「色（時間帯の印象をつくる）」を組み合わせてシーンを考えると良いと思います。 ホールの条件やセットなどの設定(ホリゾント幕の有無、野外、室内等)により、照明効果で作られる雰囲気は大きく変わることも頭に入れておいてください。 ②であれば、Topサスだけでも、音やセリフがあれば表現する事が出来ると思います。逆に言うと、照明だけで「夜」を表現しようとして青くて暗いシーンを作っても、「夜」と感じる人もいれば、「沈んだ様な気分」と感じる人もいると思います。 照明には正解はありません。あくまで見ている人に、伝えたい事を伝える為の１つである事を考えながら、皆さんで話し合ってお芝居を作ってみて下さい。
	舞台：上記音響、照明の効果とともに、セリフの内容、セリフの言い方、立ち位置など変えるだけで「違う雰囲気」になりますので、どのような演出にするかいろいろと試してみるといいのではないでしょうか。

質問	照明機材について ・劇場には基本的にどんな照明器具があるか。 ・色付きが欲しいと思ったらどこで変えるか。 ・スポットライトや逆行のように照らす方法は。 ・学校の教室にて、LED照明器具を使って舞台を作りたい。灯体を購入するにあたって何からどのくらいの量を揃えていけばいいか。コントローラーは持っている。
返答	・劇場の機材に基本というものがあるわけではありません。それぞれの劇場の規模や考え方などによって機材は選定されて納入されています。 一般的に劇場で使われている機材の例としては、 凸レンズの灯体(光の縁がはっきりとした線になる) / フレネルレンズの灯体(光の縁が滲んでぼやける) / Gobo(柄)を出せる灯体 / カッターを入れられる灯体 / 水面の様にキラキラさせられる灯体 / ムービングライト / LEDライト / LEDムービングライト / ピンスポットライト.....等、書ききれない程あります。 ・色付きとは何を意味するのでしょうか？ ①LED機材で色を出す事でしょうか？ ②カラーフィルターを入れるという事でしょうか？ ①であれば、ネットで「舞台照明器具」 / 「舞台照明メーカー」で検索をすると色々見つけることができると思います。　因みに、我々の使っている物は高価な機材が多いです。 　(電球１個で1万円から、中には10万円以上する物もあります)　②であればAmazonでも買えます。 ・「スポットライトや逆行のように照らす方法は」　以前お送りした動画を参照してみて下さい。 ・まずは、前明りだと思います。客席から見た際に、舞台と客席の境界線をつくる事が出来ます。台数は教室(舞台)の広さや使用出来る電気容量(必ず確認しましょう)によって変わります。 　次に演出的に必要な明かりだと思います。因みに、灯体とコントローラーだけでは制御できません。電源用の延長ケーブルと信号線が必要ですし、灯体を吊る物(ハンガー等)、吊られる場所(バトン等)、置きで使うならばベースやスタンドも必要になってきます。

質問	・役者の影（シルエット、人型）の出し方。くっきりと出すにはどうすればいいのか。 ・役者の影に三原色を組み合わせて色をつけたい。舞台が黒い時でも有効か。
返答	・どういうシルエットを出したいのでしょうか？(単純に演者をシルエットに見せたいのか。ホリゾントや床に影を出したいのか。) 一般的に照明の見せ方として「シルエット」と言われる手法を紹介します。 ホリゾントライトを点灯させて、前明りを消すと背景であるホリゾント幕が明るくなり、人物の形が影になる為、「シルエット」と言われる様な見え方となります。ホリゾントライトが無い会場（東京芸術劇場では、シアターイーストにはホリゾントがありません。）ならば、Back Footを使用して舞台の奥から対象の人や物に向けた光を当てる。するとその人や物の部分だけが影になる為、「シルエット」と言われる様な見え方になります。(ただし、灯体→人→客席が直線上だとまぶしいだけになってしまいます)。ですので、直線上にならない様に置き位置を決めればシルエットに見えます。 人や物の形をはっきりとした形で見せたいのであればホリゾントを使う手法が多く使われるかも知れません。 以前お送りした動画にも、Back Footやホリゾントを使っている様子が映っていますので、参照してみて下さい。 ・実際に検証してみました。　「照明別紙」を参照下さい。黒い壁に3色(赤/青/緑)の光をあてています。

質問	・爆音のなかでキャストの大声を通すにはどうすればいいか。
返答	基本的には大きい音の中では声は聞こえづらくなります。音を出す方向や前後関係等の位置関係で多少聞こえ方は変わりますが、声が通るというほど改善はしません。 対策としてできることとしては、大きな音に負けないように台詞の音量を上げる（マイクなどで拡声や録音したものを流すとか）か、爆音そのものの音量を下げて台詞を聞かせるか、どちらかになると思います。 爆音を出すということにはおそらく意図があると思いますが、なぜ爆音が必要なのか、それは終始爆音である必要があるのか、台詞に関しては、なぜそのタイミングで台詞が必要なのか、そのセリフは爆音の中で有る必要があるのか、どういう演出したいのかを一度整理すれば解決策が見えてくるかもしれません。 例えば大きな音やノイズの中で一瞬音量を大胆に下げて台詞を聞かせれば、映像でいうクローズアップのような演出が音で表現できると思います。 爆音というインパクトを与えたいのであれば、聞かせたいところだけガツンと大きく出して、台詞のタイミングまでに音量をスルスルーっと台詞が聞こえるギリギリまで音量を下げれば、特に演出に変化が出ない形で自然にセリフが聞こえて来る形ができるかと思います。 （大きい音のすぐあとでは、耳が大きい音用の耳になっているので、ちょっとフェードアウトした方が台詞が通りやすくなります） ずっと大きな音を流していると人間の耳は慣れてしまうので、小さい箇所をあえて作り、聞かせたいところだけガツンと聞かせるような抑揚をつけることで、「大きい音」という意図が生きてきます。大きい音も大事ですが、下げどころを見つけると、よりメッセージが伝わる音作りが出来ると思います。

質問	電波使用、リアルタイムでのデータ送受信について ・舞台上で実際にスマホを使って電話で会話はできるのか。 ・実際のテレビを持ち込んでテレビ番組を見ることはできるか。 ・舞台上でスマホのBluetoothを使って持込のスピーカから音を出すことは都大会でも可能か。
返答	スマホで電波を使って会話をする、bluetoothで音をスピーカへ送る場合、電波を使うということになります。 有線に比べて電波を使用する場合はリスクが伴います。音声通話の場合は、劇場では携帯電話抑制装置を作動させることも多々あるため、電波が届かなくなる可能性が高いです。また、建物内にそもそも電波が届かないこともあります。モバイルデータ通信（持込ルーター等）やBluetoothの場合、同じ周波数帯（２．４GHz）にwifi機器等があったりと混み合っている帯域になるため、電波干渉（同じ周波数の電波同士で干渉）でペアリングできなかったり。電波が届きづらく音が途切れたりするリスクがあります。2.4ＧＨｚについては急にルーターを持ち込まれたりと都度電波状態が変わるためリハーサルでは大丈夫だったけど本番では音が出ないと言ったようなリスクも考えられます。 Bluetoothについては、過去に２回、高校演劇の都大会で、シアターイーストにて「どうしても使いたい」とのことで、舞台袖から舞台上のスピーカーへ向けてBluetooth伝送で音を出そうとしましたが、Bluetooth規格は公称5m～8m、実効距離は1m～2mで、2校とも上手くいかず、断念した実例があります。 スマホでの会話についてですが、実際に電波を使わずスマホを使って会話をしているように演出することを視野にいれてみてはどうでしょう。例えば、舞台上で喋った人の声を聞いて話し相手が 袖中からマイク等を使って応答し、どこかのスピーカからその声を出してあげればリアルタイムの会話が成り立ちます。 テレビについては、リアルタイムのテレビ放送を放映するというよりは、録画しておいたものを流すという事の方が現実的だと思います。テレビ放送を送出できるシステムがある館は多くないと思います。Wi-Fi 電波等でデータ受信を考えている場合は上記のような電波に係るリスクが伴いますので要注意です。 スピーカの持込については、サイズにもよりますが、広い会場ではスペックが足りず欲しい音量まで出せないということも考えられます。 １つ提案として、スマートフォンから再生したいのであれば、有線で劇場のシステムへスマホを接続し劇場のスピーカから音を出すという方法も考えられますが、対応可能かは会場によって違います。 ただ、東京芸術劇場については、音を再生するだけではなく、音量を調整する作業が必要になり、リハーサル及び本番にて客席側の音響調整卓で操作をする必要があります。おそらく他のホールでも同様のことは考えられますので、誰でもいいので１名、音響担当者という役割を担う人をご用意いただいた方がいいかと思います。

質問	音源について ・自作の曲を作りたい。おすすめのパソコンソフトや機器はありますか。 ・どこで音源を入手できるのか。
返答	音源の入手に関しては、自作する、既存の曲を使う等色々とあります。どういう曲を使用したいかイメージがあると思うので作ってみたり、色々と試聴してみるのも良いと思います。 作曲のためのソフト等については専門外のためお答えできませんが、再生用ソフトとしてはLive、録音用ソフトとしてはProtools等を主に使用しています。 なるべく安価に、初心者でも使いやすく音楽を作りたい、ということであれば、Macを買うと初めから入っているGarageBandというソフトがお薦めです。曲のループデータが豊富で、作曲が苦手な人でもループデータを組み合わせることで簡単に音楽が作れます。GarageBandはiPhoneのアプリにもありますので、スマホで曲を作ってPCに保存、ということも出来て簡単です。